



からし種と パン種のたとえ話

酒井陽介

「からし種」と「パン種」のたとえ

マタイ13：31~33

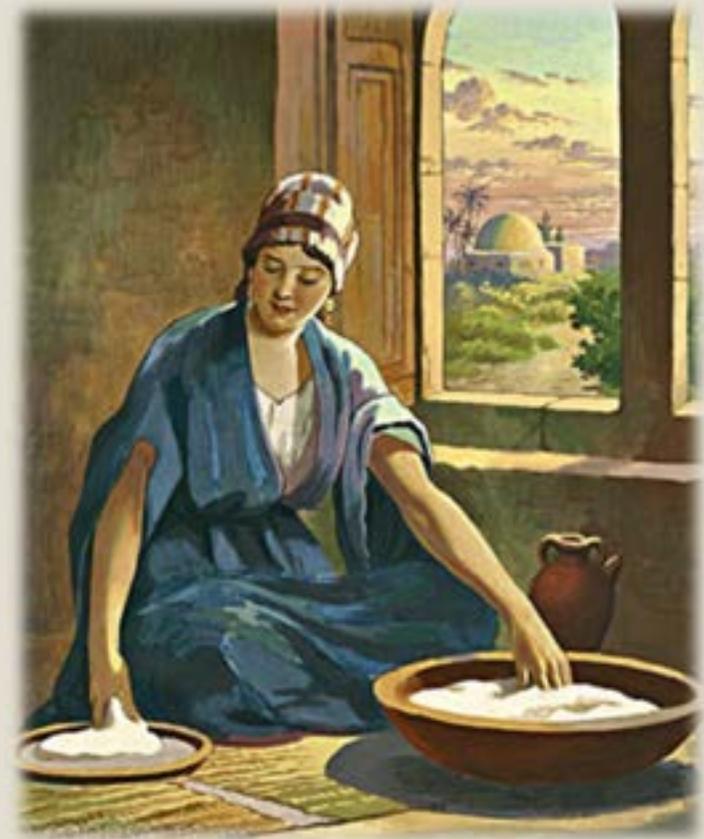
イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」

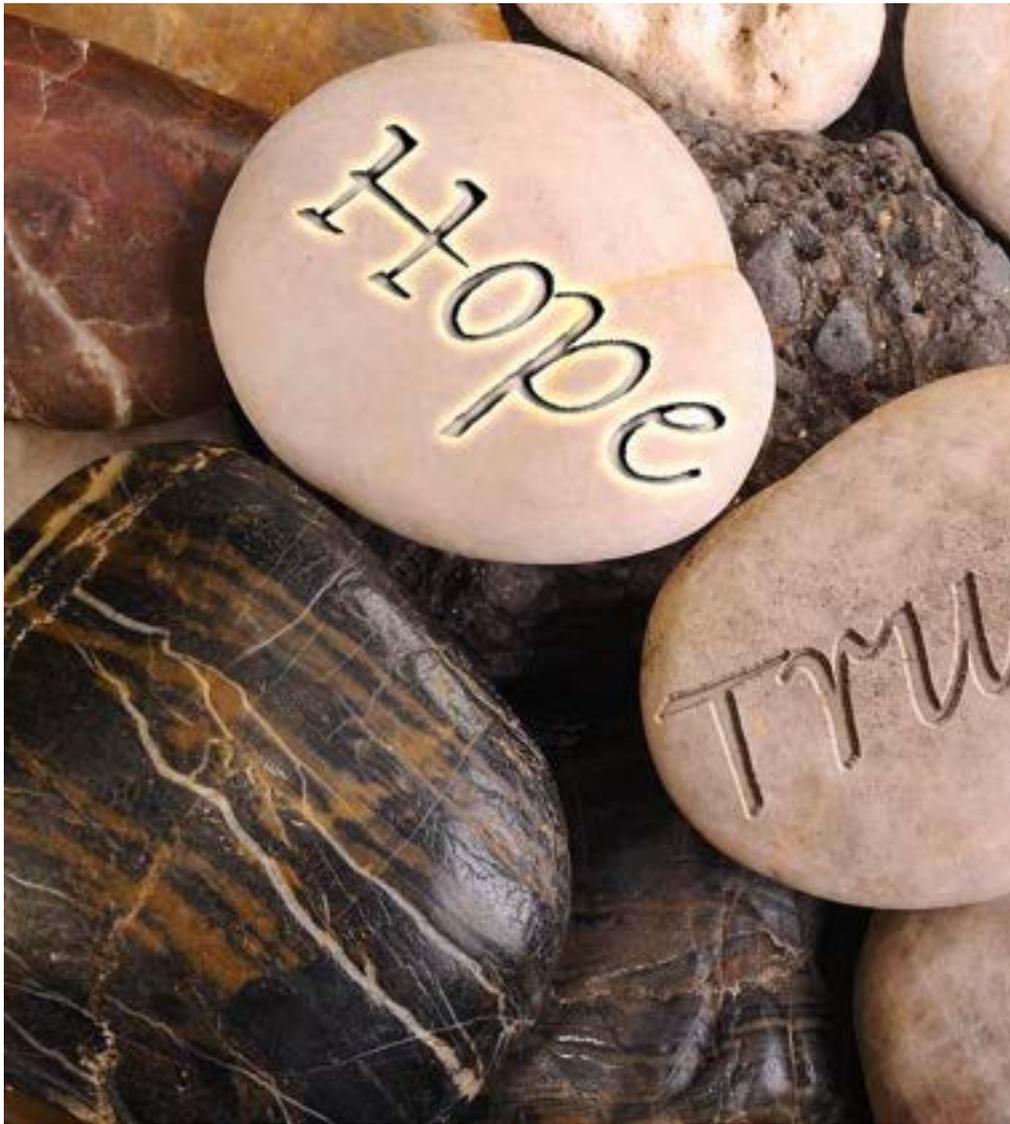
また、別のたとえをお話しになった。「天の国はパン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」

からし種



パン種



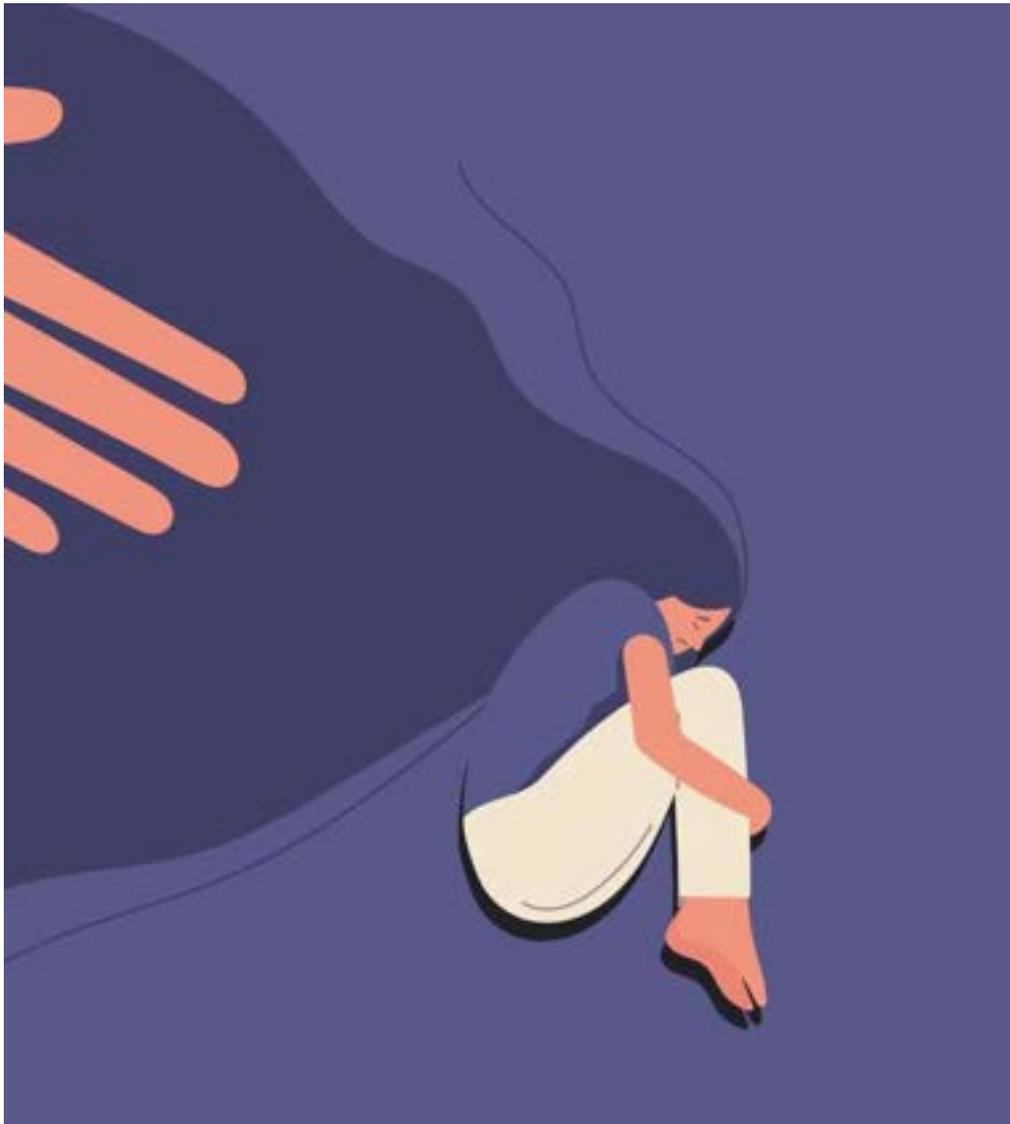


聖イグナチオ教会オンライン講座 イエスのたとえ話 (5) 「羊と山羊を分ける」

キリスト者の持つ楽観性について話しましょう。

私たちの性格が楽観的でなくてもいい。

大切なのは、私たちの希望と信頼が大きく、たくましいこと。



聖イグナチオ教会オンライン講座 イエスのたとえ話 (5) 「羊と山羊を分ける」

私たちの考えがちな 自分の小ささ

- ❖ 自分の小ささにとらわれてしまう。
- ❖ でもそれは本当の小ささでしょうか。
- 他の人と比べている。
- 自分の過去の出来事に縛られている。
- 自分の力・タレントを信じていない。
- 自分の傷や痛みばかりを気にする。

キリスト者の考える自分の小ささ

神の前にいる自分

神の眼差しを感じる自分

自分の不完全さを知り、

自分の脆さを受け止め、

神に自分のありのままを差し出す。

それでも、変わりたい！

それでも、許されたい！

それでも、前に進みたい！





聖イグナチオ教会オンライン講座 イエスのたとえ話 (5) 「羊と山羊を分ける」

自分の小さいながらもうちに秘めた力強さとダイナミックな躍動感を感じる

それは、神が私たち一人ひとりに撒いてくださった種のようなもの

種の発芽には適度な温度（陽の光）と湿度（水分）が必要であるように

自分の弱さや小ささを受け入れるためには、適度な暖かさ
と潤いが必要

人との出会いや交わり、神との関わりがどうしても必要

あなたの小ささは、神の大きさに抱かれている。

あなたの不完全さは、これからの成長（変容）の可能性を示す。

あなたの有限さ（限界）の中に、
神の無限さ（全能）さが現れる。

神に愛され、許され、支えられ、生かされている自分を生きる。

そうすれば、他者の生きている小ささを
受け入れることができる。



ヘンリ・ナウエンのことば

❖ 「傷にはそれなりの理由があるのだろう。この痛みは、私の救いへの入り口、栄光への扉、自由への通路かもしれない。この傷は、傷の形を借りた恩寵だということを、私は知っている。」

『最後の日記—信仰と友情の旅』女子パウロ会（2002）、51頁

❖ 「孤独を痛切に味わうことは、私たちの限界を超え、私たちの存在の境界の彼方を見るための招きであるかもしれない。」

『傷ついた癒し人』日本キリスト教団出版局（1973）、118頁

